

# ■第1章

- 1) 音楽と楽譜 (music & score)
  - 2) 五線譜 (staff notation)
    - 2-1) 五線 (staff)
    - 2-2) 加線 (ledger line)
  - 3) 幹音 (natural tone)
  - 4) 音部記号 (clef sign)
    - 4-1) ト音記号 (G clef/高音部記号/treble clef/ヴァイオリン記号)
    - 4-2) ヘ音記号 (F clef/低音部記号/bass clef)
    - 4-3) ハ音記号 (C clef/中音部記号/alto clef)
  - 5) 大譜表 (great staff)
  - 6) オクターブ (octave)
  - 7) 音高表示 (オクターブ区分)
  - 8) ドラム譜 (drum score)
  - 9) タブ譜 (tablature)
- 

## 1) 音楽と楽譜 (music & score)

現代の音楽はCDや様々な電子機器に録音され、それを再生する事によって聴く事ができます。このような音楽を録音する技術は「蓄音機」の発明まで遡る事になりますが、さらに蓄音機の発明よりも以前は、紙などに書かれた「楽譜」(music score)によって音楽が記録されてきました。録音や再生の技術がなかった時代の古いクラシック音楽を現在でも聴く事ができるのは、音楽が楽譜によって記録されてきたからと言えるでしょう (※1-1)

楽譜には幅広く使われている「五線」による楽譜の他に「タブ譜」や「ドラム譜」などがあり、それらを書く為の規則や方法を「記譜法」(musical notation)と言います。楽譜の様式は世界中で共通しており、それは音楽家同士がコミュニケーションをとるための共通した文字とも言えます。もし楽譜の読み書きができれば、世界中の音楽家とコミュニケーションをとる為の大きな助けとなるでしょう。

楽譜には音の高低や長短、強弱に加え、音楽を表現する為の様々な記号が記されています。その記号を理解する事によって作曲者の意図を把握し、より音楽を楽しむ事ができるでしょう。また音楽の専門家には、楽譜を早く正確に読む能力が求められる場合があります。

---

※1-1 五線による記譜法は中世ヨーロッパで始まり、長い年月改良を重ねる事によって現在の形となった。さらに時代を遡ると、古代ギリシャでは文字を使って記譜し、器楽用と声楽用の二種類を使っていたと考えられる。またシリアでは粘土板に音階名と数字を書き加えた賛歌が発見され、それは紀元前2000年後半頃の物と推測されている。